

INSTANT FRAME

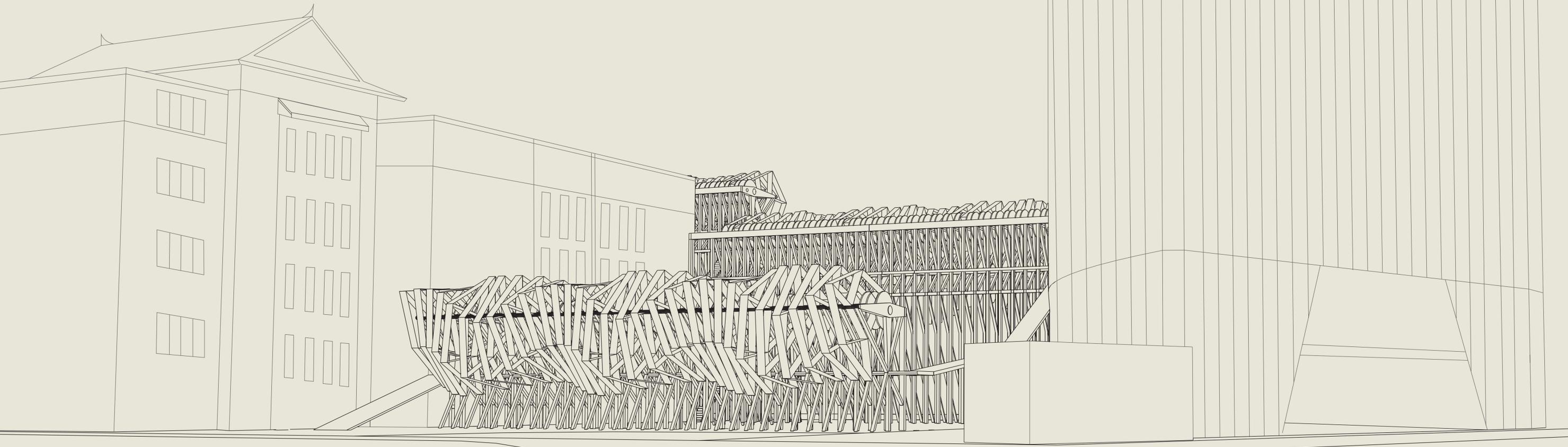
風で揺らめく装飾物

仮設の枠組み

人の動きに関係なく挙動するそれは、まるで風車のようで

フジツボのように既存の建築にへばりつくそれはまるで木々で蠢く虫のようで

そんな風に寄生する建築の姿に魅力を感じた



CONCEPT:

建築が動くこと。その建築が仮設のものであること。

——建築と時間が関わる二つの側面を追究するプロジェクトである。

建築に限らず運動には時間が関与する。

世界の中で時間は常に動き続ける。

建築のそれは通常、環境要素(風、光、熱、音……)や生命体(人、動植物……)の運動として観察される。

建築内部の運動が、建築の時間を刻み続ける。

したがって、建築が使われなくなれば運動は消散する。

建築の時間は停止する。

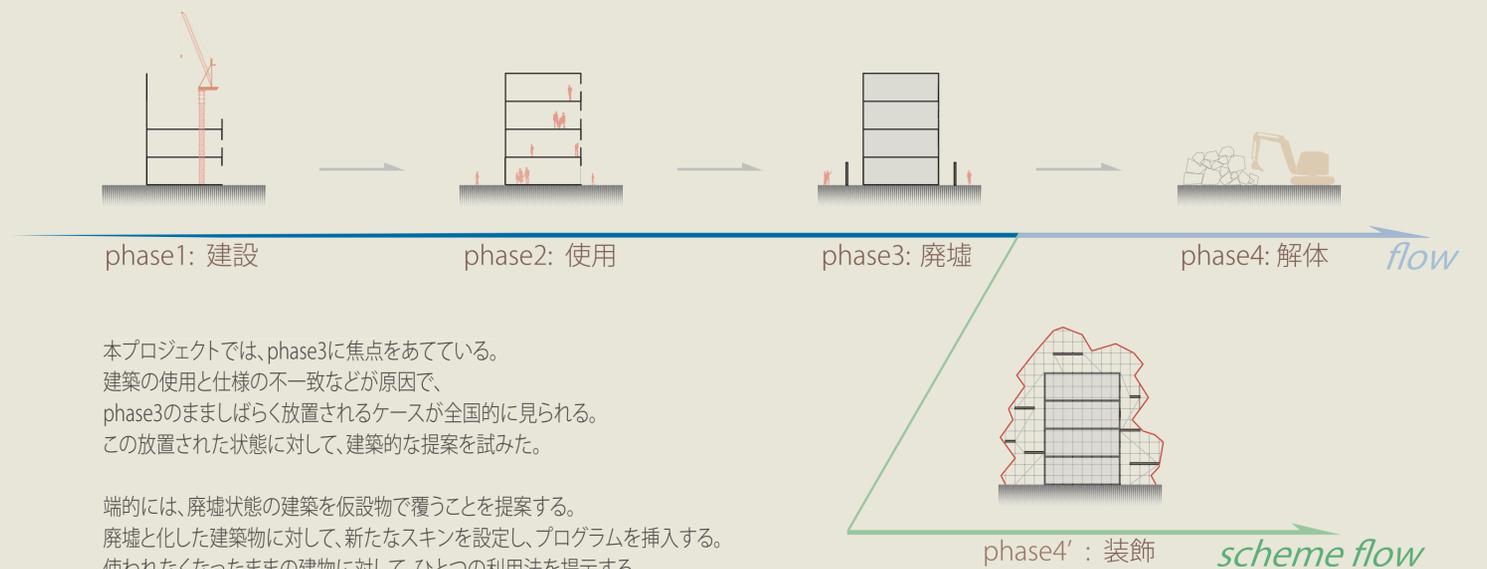
そこで建築外部の要因が建築に運動を与えるモデルを提案する。

使用不可となり、時間が止まってしまった建築を、可動の要素で覆ってみよう。

運動が人の行為を刺激することで、廃墟と化した建築を駆動する、エネルギーの場が出現する。

リノベーションでもコンバージョンでもない廃墟の使い方として、

建築の表面を覆う装飾としての仮設構築物——instant frame——を提案する。



LAYOUT DRAWING:



SCHEME:

敷地は九段会館とした。
九段会館は建築の挙動によって時間が止まってしまった例であり、
廃墟のまま長期間放置される可能性が大きい。

構築上の操作としては、九段会館の前をボイドとして開けながら、
そこに寄生するように仮設の回廊を貼り付ける。
ボイドは広場として機能し、そこにプログラムを挿入することで、
祝祭の場を現前させる。

こうした回廊に可動体を付属させることで、九段会館は再機能する。
動く建築が、建築のもつ時間を再認識させる。

PROGRAM:

九段会館は旧名 軍人会館といい、
軍国主義時代を象徴するかのような建築である。
こうした重々しいコンテキストに対して、本プロジェクトでは
ポップなプログラムを挿入する。

具体的には、軽音楽のコンサートやサブカルチャーの即売会、
蚤の市、古本市を想定する。
これらは神保町や御茶ノ水、秋葉原といった周辺の場所から
人を集めて定期的に行う。

武道館のイベントや花見といった
季節イベントなどの周辺環境と連動しつつ、
複数のプログラムを仮設的に展開することを提案する。

MOLDING CONDITION:

area

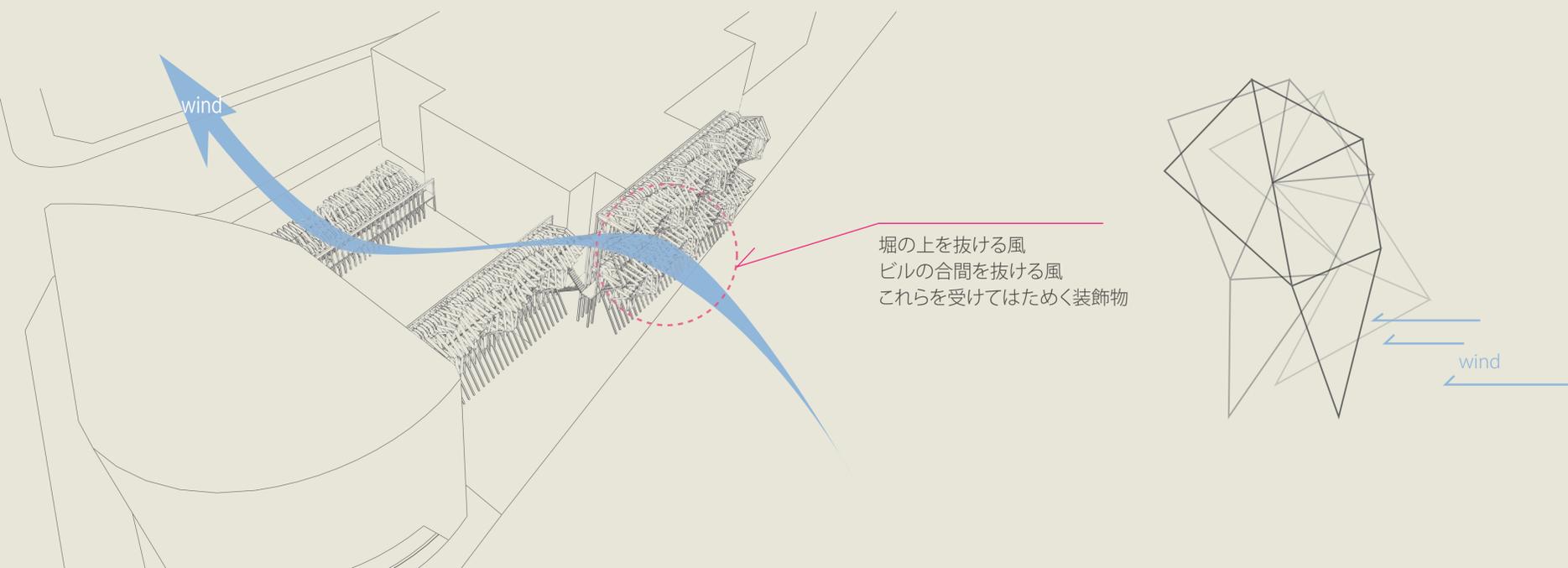
武道館脇の展望台他からの、敷地周辺のview pointからの
視野角によって、仮設物の巻きつけ範囲を決定。

system

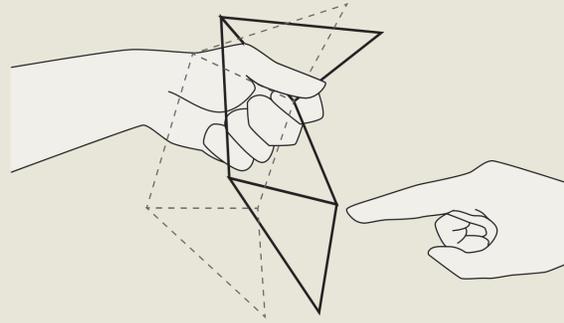
構造が格子状に構成されている九段会館に合わせて、
グリッド・システムを採用する。
九段会館と昭和館に囲われたヴォイドにグリッドを設定し、
仮設物が九段会館のファサードの見えとバランスを取りながら、
動線を考慮した上で柱をプロットする。

decoration

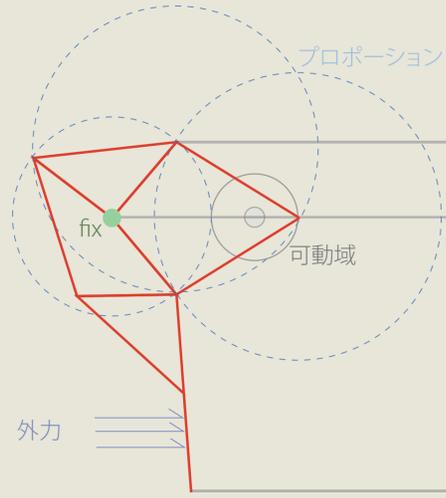
稼働する付加物は、風によって挙動する。
風力で挙動する既存のモデルを参照しながら、
ディテールやマテリアルを決定した。



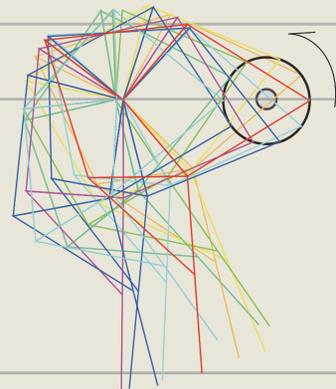
FORM DIAGRAM:



三角形と四角形の組み合わせ。
四角形の変形と三角形の挙動。



simple model
固定部や可動部の設定と、
全体のバランスを調整。

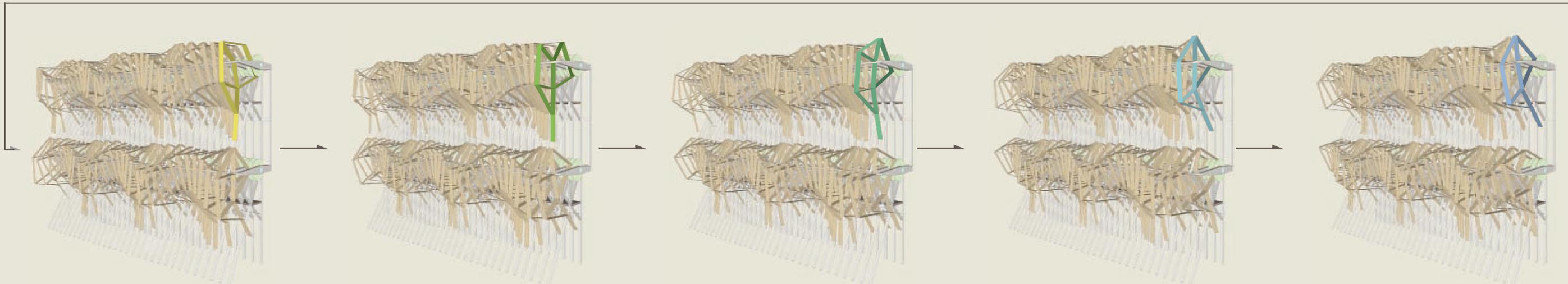
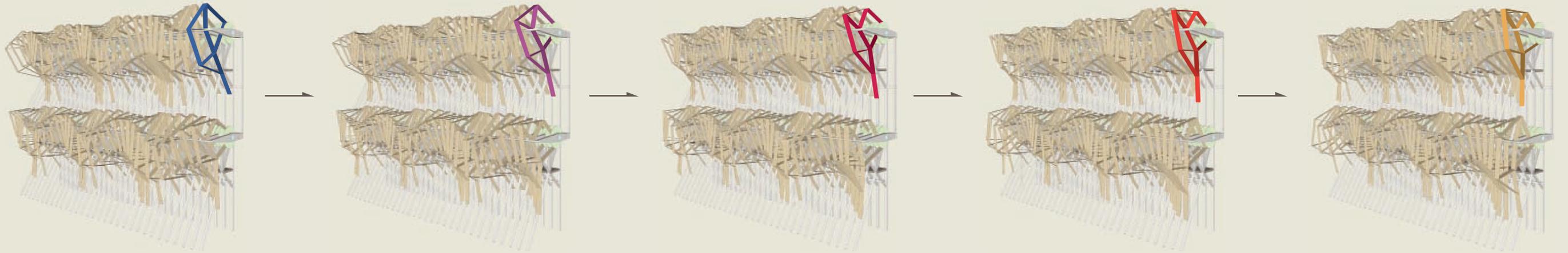


model process
上下2つの三角形が、
互いに連動し合って挙動する。

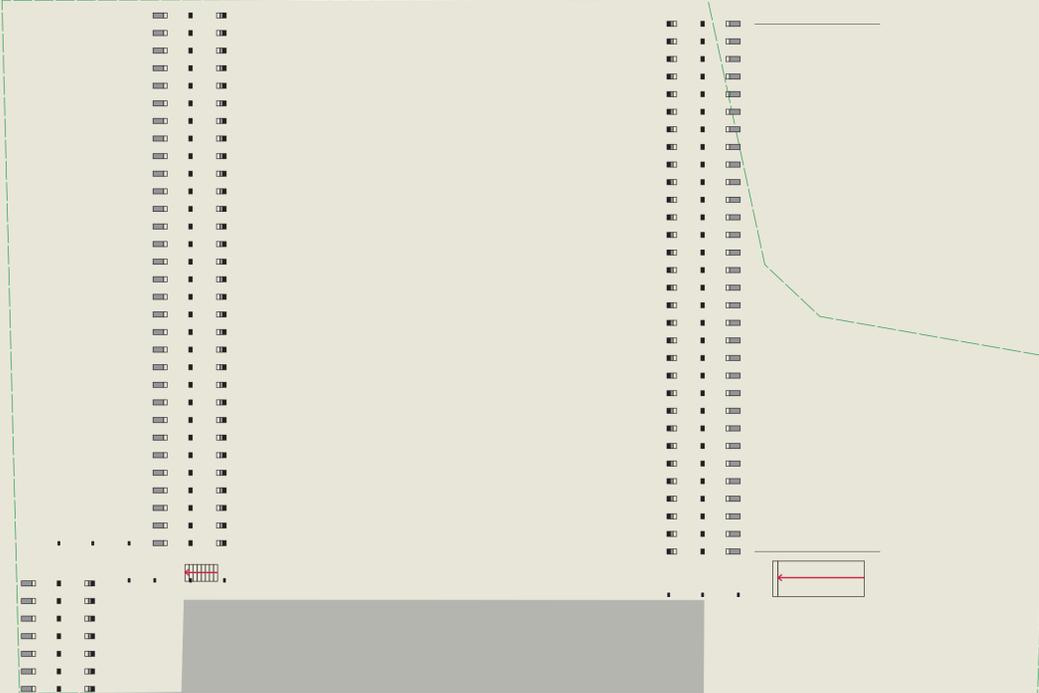


tracks
軌跡は波形を反復する。

MOVING IMAGE:

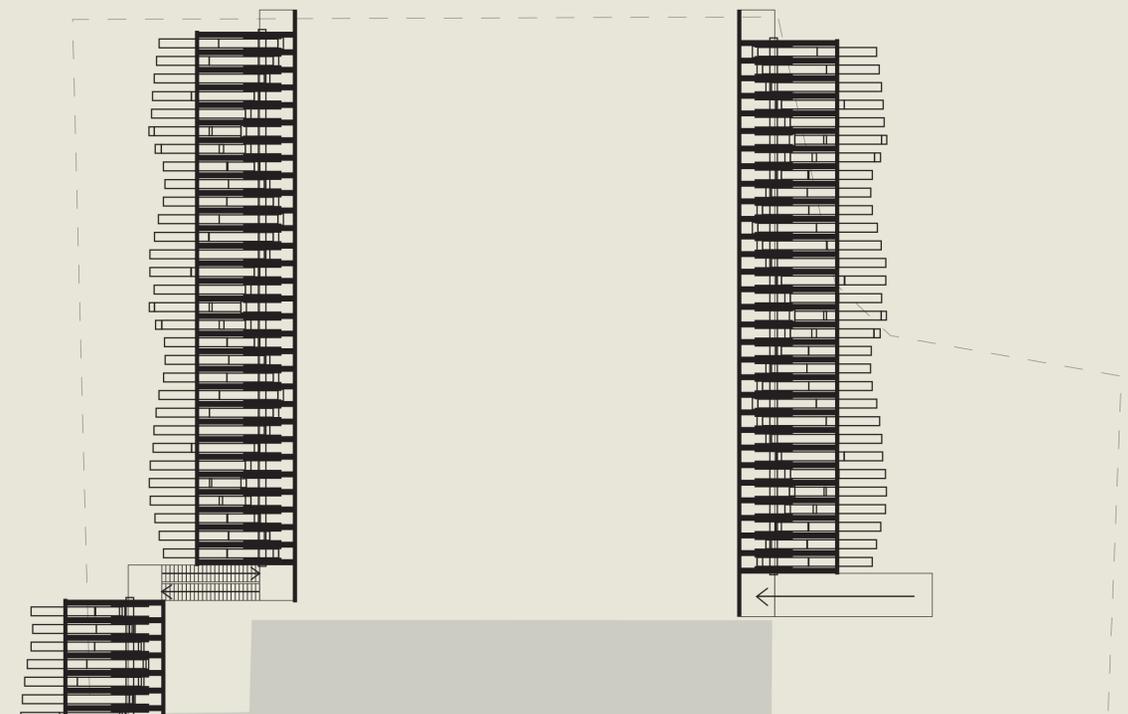


昭和館

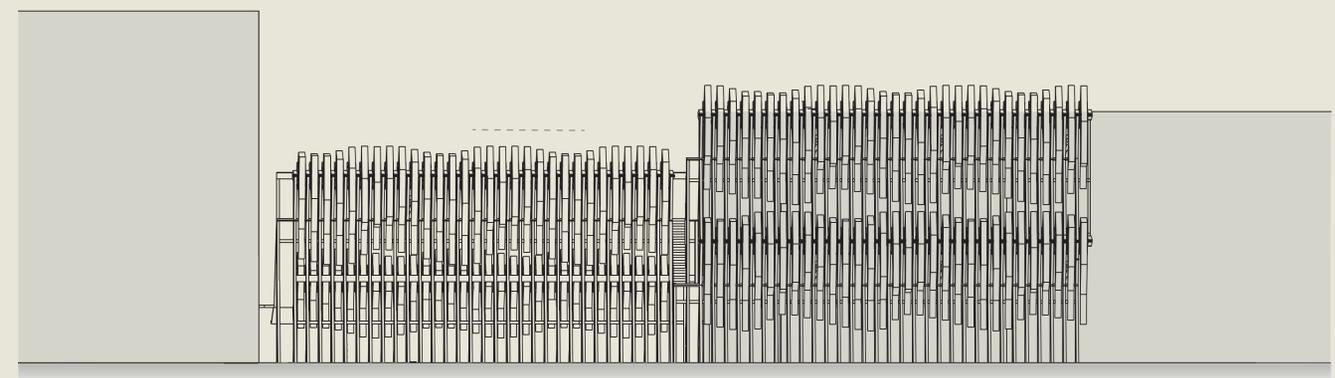


PLAN G.L.+1700

九段会館

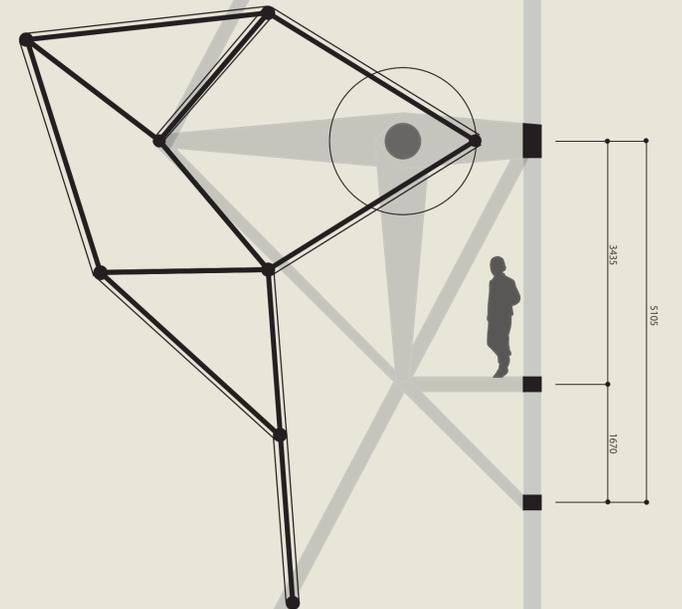
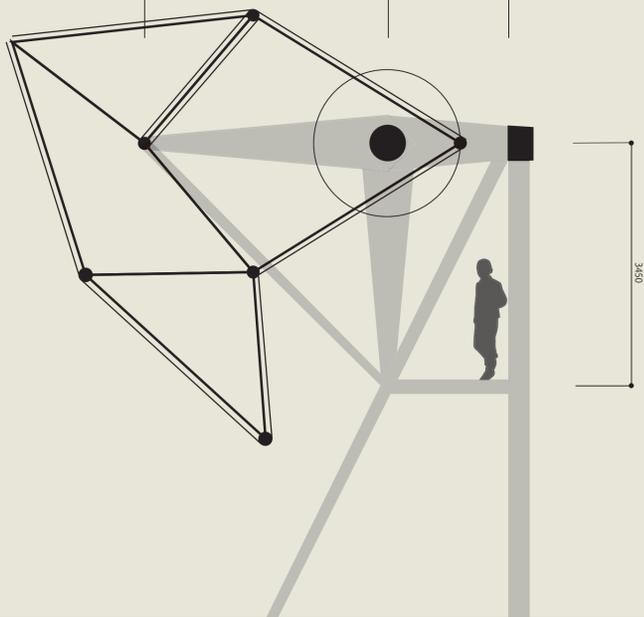
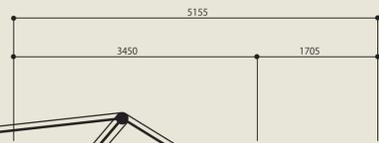
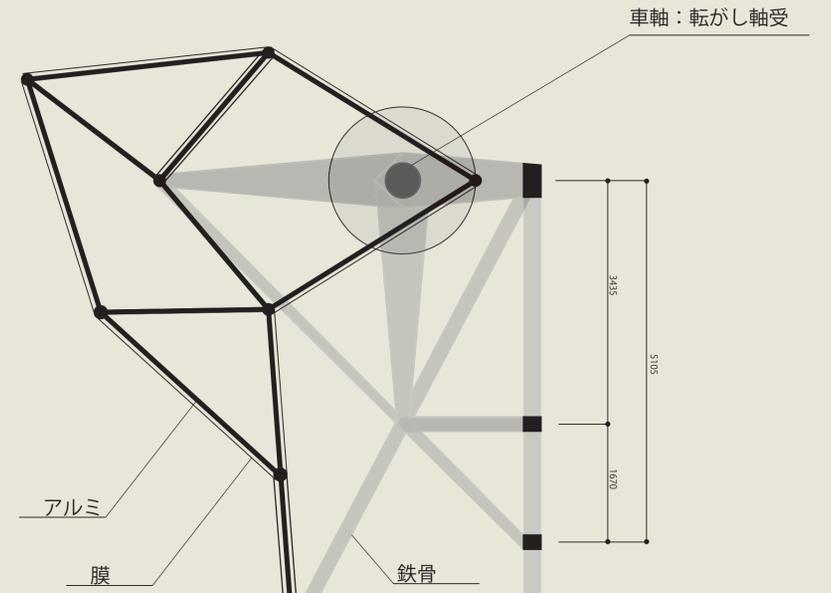
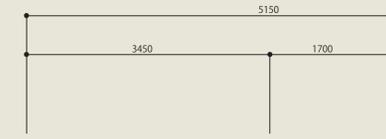
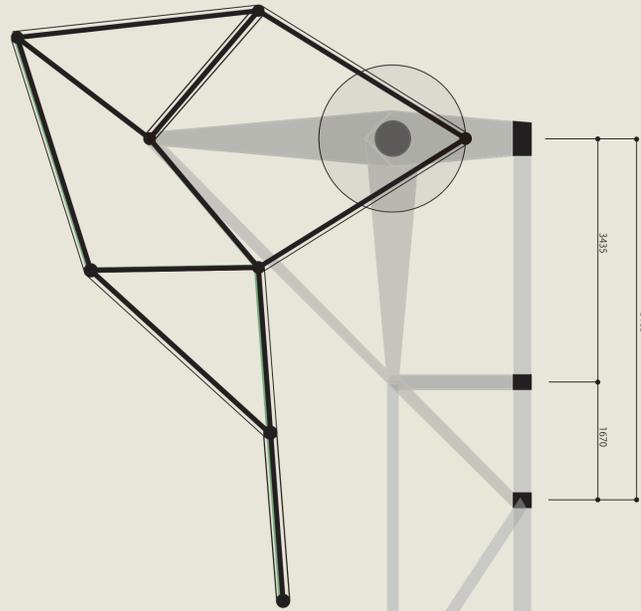


PLAN G.L.+4000



NOUTH-EAST ELEVATION

LOCAL SECTION:



NORTH-EAST UNIT

NORTH-WEST UNIT

SORTH-WEST UNIT



